

大黒屋光太夫 天明2年(1782)、光太夫を船頭に乗組員17名が神昌丸で江戸へ出航した。遠州灘にさしかかると強風にあおられ、約7ヶ月の苛酷な漂流の旅が始まる。ロシア漂着後、約8年目にして帰国許可願のため、時の女帝エカテリーナ2世に拝謁。幾多の苦難を乗り越えて寛政4年(1792)に帰国する。帰国時の日本人乗組員の人数は17名中3名であった。

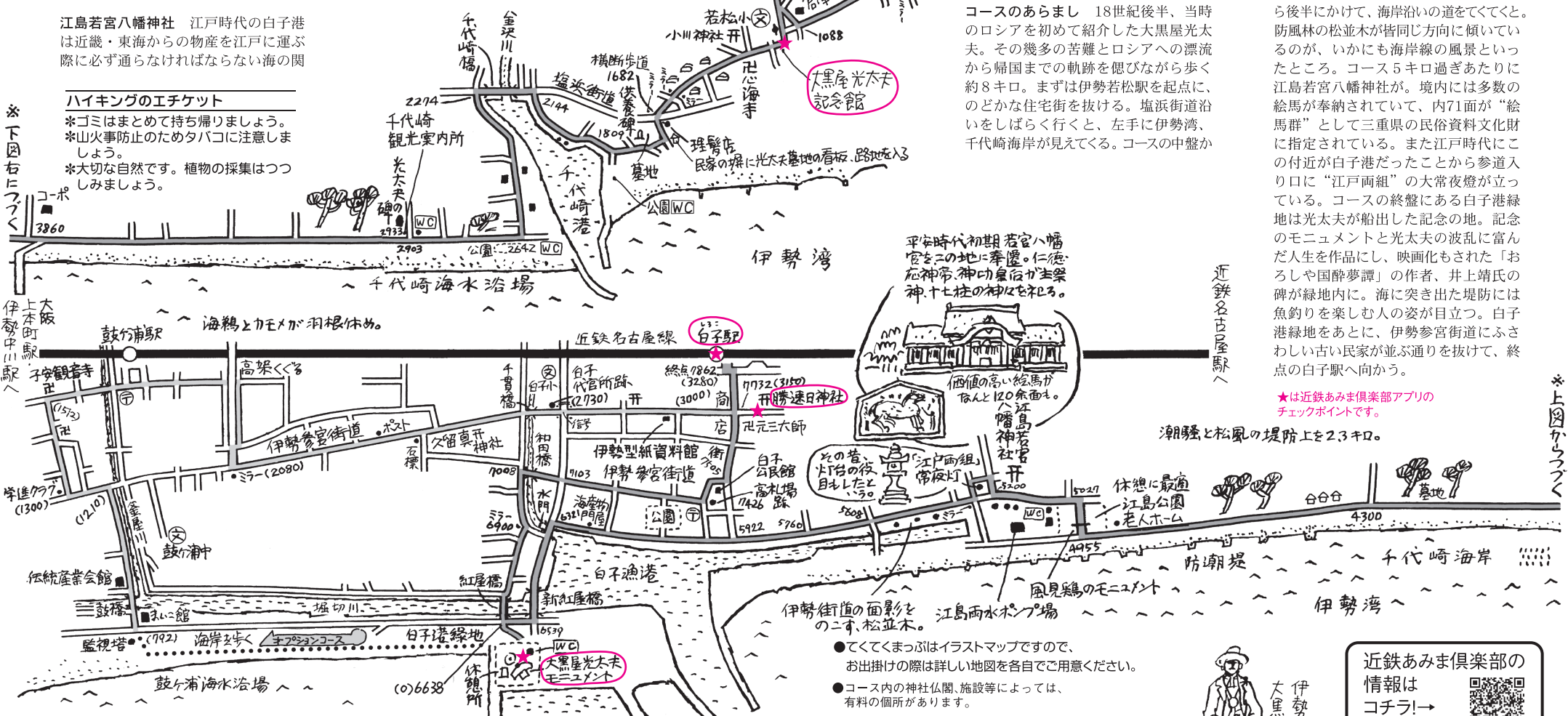
所として、重要な役割をしていた。白子と江戸の廻船業が発達し、船の往来が多くなったため、廻船問屋達が海上の安全を祈願するためこの神社に絵馬を奉納したと伝わる。このほかにも商売繁盛、家内安全、長寿などを祈願した絵馬も奉納されている。
※拝観は社務所にて要申し込み

江島若宮八幡神社 江戸時代の白子港は近畿・東海からの物産を江戸に運ぶ際に必ず通らなければならない海の関

ハイキングのエチケット

- *ゴミはまとめて持ち帰りましょう。
- *山火事防止のためタバコに注意しましょう。
- *大切な自然です。植物の採集はつしみましょう。

※下図右にまつく



●地図内の数字は、起点からの実測距離(メートル)を表わしています。

コースのあらまし 18世紀後半、当時のロシアを初めて紹介した大黒屋光太夫。その幾多の苦難とロシアへの漂流から帰国までの軌跡を偲びながら歩く約8キロ。まずは伊勢若松駅を起点に、のどかな住宅街を抜ける。塩浜街道沿いをしばらく行くと、左手に伊勢湾、千代崎海岸が見えてくる。コースの中盤か

ら後半にかけて、海岸沿いの道をてくてくと。防風林の松並木が皆同じ方向に傾いているのが、いかにも海岸線の風景といったところ。コース5キロ過ぎあたりには江島若宮八幡神社が。境内には多数の絵馬が奉納されていて、内71面が“絵馬群”として三重県の民俗資料文化財に指定されている。また江戸時代にこの付近が白子港だったことから参道入り口に“江戸両組”の大夜燈が立っている。コースの終盤にある白子港緑地は光太夫が船出した記念の地。記念のモニュメントと光太夫の波乱に富んだ人生を作品にし、映画化もされた「おろしや酔夢譚」の作者、井上靖氏の碑が緑地内に。海に突き出た堤防には魚釣りを楽しむ人の姿が目立つ。白子港緑地をあとに、伊勢参宮街道にふさわしい古い民家が並ぶ通りを抜けて、終点の白子駅へ向かう。

★近鉄あみま倶楽部アプリのチェックポイントです。

- てくてくまつぷはイラストマップですので、お出掛けの際は詳しい地図を各自でご用意ください。
- コース内の神社仏閣、施設等によっては、有料の個所があります。



近鉄あみま倶楽部の情報はコチラ! →

企画・発行=近畿日本鉄道(株)
制作・印刷=(株)アド近鉄
イラストマップ=トシ・アトリエ 潮川俊明
※無断転写禁止。

●約8キロ [伊勢若松駅～大黒屋光太夫記念館～江島若宮八幡神社～光太夫モニュメント～白子駅]

大黒屋光太夫ふる郷散策コース

きれいな思い出 きれいな自然
ゴミや空き缶は、持ちかえりましょう

